

人	33年	53年
世帯数	三七、七二五人	三二、九五二人
農家戸数	五、九四一	七、二〇〇
一般会計予算	一億八、七〇〇万円	二、六三三万円
議員定数	六〇人	三〇人

注・人口、世帯、農家、議員定数は県民年鑑を参照  
予算は33年度、53年度の当初予算

それから二十年——この間にいろいろと変わりました。社会も白根も……。これらの変わった様子を数字でみると当時市内の物価は、米一斗（一・五〇）千円。しょう油一升（一・八〇）九十五円。白砂糖百匁（三十七・五）五十五円。ハガキ五円。映画二百四十円。食パン十五円などでした。

また、三十三年と五十三年の白根市の動態をくまると左の表のようになります。年月の隔たりが感じられます。



はたちを迎えた皆さん、おめでとうございます。

皆さんが生まれた当時は、白根市も一町八か村が合併して市となり、三歳になっていました。

このころの式典は、一月十五日の成人の日に、白根小体育館で行われていました。

三十三年には、七百六十二人が新しく社会の一員として、大人の仲間入りをしています。五ページに掲載している写真がその時のものです。

# はたちになっても

来年は、白根も市となって  
20歳になります

どんよくに学びたい  
坂井 幸貴  
(消防署勤務・大郷)

消防署に勤務してから3年目を迎えました。現在は、警防と救急業務を担当しています。

経験2年といっても仕事の上ではまだまだです。

机上の勉強だけで、いくら理論的なことをいっても、実戦経験を積んだ先輩にはとてもかきません。やはり経験を積んでこそ、今まで吸収した知識や勉強が役立ち、生きてくると思います。

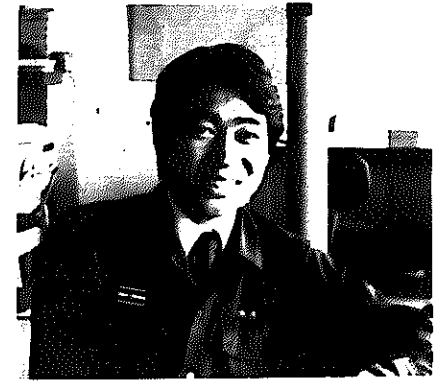
20歳を迎えたこれからも、すべてのものをどんよくに学び、吸収したい……

そして社会の進歩と、時代の要求に応じた消防活動に精一杯、取り組んでいきたいと思っています

成人式が五月三日の憲法記念日に、青年教育センターで行われます。

今回、成人を迎えた若人は、昭和三十三年四月二日から三十三年四月一日までに生まれた、四百六十七人（四月十七日現在）です。

今月号では、八人の成人者から「はたちになって」ということで、原稿を寄せていただきました。



喜びよりも重みが  
川又 良子  
(製菓会社勤務・庄瀬)

私は旅先で20歳の誕生日を迎えました。高校のころからずっと憧れていた土地——目に映った風景が、思ったとおりだった喜び。それにも増して、思いがけないその土地の人情にふれ、とても有意義な旅でした。

あれから半年以上も過ぎた今、私にとって「はたち」という言葉は、もう定着してもよさそうなのに、まだしっくりしません。

成人という社会的に誰れもが迎える人生の節目。喜びよりも先に私は重みを感じています。

いくつかの権利が与えられる代償として、常に自分の行動に責任が付きまわるのですから、うかつに行動できません。

かといって味気ない人生だけは送りたくないと思っています。

自覚は選挙権の行使から  
丸山 昌美  
(ニット会社勤務・白根)

「長い人生の中で一つの大きな節目が訪れた」といっても、ふだんの生活がどう変わることはない。

成人すれば、変身して別人になることはないから……

実際、自分の意識の中にはまだ成人としての自覚を持っていないこんな自分に焦りを感じないわけではないのだが——

でも、こうしたことは短時間で解決できることではないので、少しずつ努力を積み重ねて行きたいと思っている。

さいわい近く、成人としての権利である「選挙権」の行使ができる。

これにより、成人としての自覚が少しでも表面に出てくれたらと思っているのだが……



ありがとお母さん  
長 沢 美智子  
(医院勤務・白井)

私の成長を一番喜んでくれる母に、お礼がいたい……

私が悩み苦しんでいる時も、いつも励まし、やさしく守り育ててくれた母。生きる喜びと、自分に正直に生きることを教えてくれた今、社会人としてすばらしい仕事に励むことができるのも、すべて母のおかげです。

母の苦勞などを知らないで、伸び伸び育った私が、大人として、母の手元から離れて行きます。

これからは、はたちの原点に立ち、一人で歩み、努力します。立派な社会人としての使命と責任感を持って成長するように……お母さん！本当に、ありがとう。

まだ赤ん坊？  
五十嵐 真  
(プレス工場勤務・白根)

20歳、はたち、成人……前は20歳になったらいろいろなことができると思っていた。

しかし、現実には何もできない20歳は、もう立派な大人だと周囲の人はいう。それは嘘だ！ただ大人の見え目が少し変わっただけにすぎない。

20歳という年齢は、大人の世界ではまだ赤ん坊——

これからの自分たちは、年上の人を手本に、少しずつ世の中のことを学んで行く時期ではないだろうか。

それに、自分の行動については責任を持たされ、また、持たなければならない年齢——それが20歳じゃないだろうか。

